

令和8年 1月の大坂森林便り



1月の木の話 丸太組工法の特徴

- *丸太組工法：丸太または多角形の断面の木材を水平に置き、井桁のように組み上げて壁をつくる工法。日本では校倉造とよばれ、正倉院が有名。
- *丸太の乾燥収縮を繰り返す中で、丸太自体の重さにより壁面が沈下します。
- *扉や窓の上部に隙間を設けるなど、壁面の沈下量を考慮した設計・施工が重要。
- *壁面の高さに対して一定以上の長さを満たすものが耐力壁として認められるため、開口部の幅を大きく取ることは難しくなります。
- *壁面に無垢の木材を多用するので、調湿性や遮音性、断熱性に優れています。
- *木材は丸太の状態ではすぐに火が付きにくく、仮に燃えても表面だけが燃えます。
- *幕田組み工法による外壁でも防火構造の認定を取得したものは、一定の規模までなら市街地の準防火地域でも建設が可能です。
- *準耐火構造でも丸太組工法によって建築することが可能です。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用)



集成材原料、欧州産7%安

10～12月 円安で値下げ要求

- *集成材の原料となる「ラミナ（引き板）」のユーロ建て価格が下落。
- *主流品の欧州産の10～12月期の取引価格の交渉は、7～9月期に比べて7%程度安い水準。
- *4～6月期までは上昇傾向。7～9月期以降は2四半期連続で下落。
- *集成材メーカーが輸入業者から購入する際のラミナの円建て価格や、集成材メーカーから住宅メーカーへの集成材の販売価格には上昇圧力がかかったまま。
- *ラミナの円換算の価格は為替のユーロ高・円安の影響で7～9月期以降も上昇基調。
- *住宅用集成材の加工コストも上昇。
- *接着剤などほかの原料価格や人件費が上昇。
- *10月の木造の新設住宅着工戸数は7か月連続で前年同月を下回り、2.8%減。

(2025年12月6日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



森林整備費　目立つ未活用　自治体 9 割で使い残し

検査院調査　人材・ノウハウ不足　壁に

*国は、森林整備事業に充てる原資として 2019 年度から「森林環境譲与税」を都道府県と市町村に交付。

*財源は 2024 年度から新たに導入した「森林環境税」。

*会計検査院は 2019～2023 年度分の執行状況を調査。21 都道府県と 324 市町村を抽出。

*2019～2023 年度に配分された計 485 億円のうち、3 割に当たる計 145 億円が未活用。

*9 割の自治体が使い切れていませんでした。

*森林は日本の国土のほぼ 3 分の 2 を占めます。

☆森林環境税

*東日本大震災復興に伴う増税措置のうち 2023 年度末に期限切れとなった住民税への 1000 円上乗せ分と入れ替えで始まった新税。

*各自治体の私有林面積や林業就業者数に応じて配分され、総額は年 600 億円。

(2025 年 12 月 16 日　日本経済新聞記事より抜粋・引用)

